

十一月の手技材料

目白幼稚園 和田 實

一、七五三の御祝は可なり、子供の興味を牽いたらうと思ひます。なぜ祝ふか、なぜ目出度いか、

親の慈愛に就いて話す可き善き、談話材料でせう。夫れと共に、鎮守の社頭の光景は鳥居お宮、鳩、杉木立、石燈籠、など一つ／＼圖畫の材料ともなれば手工の材料ともなりません。或は総合的に一まとめにして、景色畫ともなれば砂場應用の摸景手技ともなります。或は是は特に砂箱を大きく箱庭にして、保姆、幼兒の合作の摸景箱庭としても面白いものが出來ませう。其他、十一月の初めのものとしては運動會のぼとぼりが、まだ充分にあつて色々の手技材料が出來たでせう。是等は

とまとめに集めて此月の半ばに行はれる父兄會や母の會の善い陳列材料です。

二、母の會 父兄會とか母の會とかは大概此月の中に行はねばなりません。此會は直接に幼兒の手技材料にはなりません。此會に陳列することを動機として、幼兒の學習的作業を獎勵することが出るので、保育上大切なものであります。陳列するものとしては、圖畫では、塗り繪、寫生畫自由畫、の三種は是非必要なものでせう。手技としては、切り抜き、貼り繪、組み繪、折り紙等について、摸作物とを別けて陳列す可く、更に進んでは、紙細工の立體的なるものゝ習作成績と尙出

來れば創作成績とを出したいものです。是等の手技成績を作るために、幼兒の努力は何の位緊張せられるでせう。何うか、壓迫することなく、幼兒

の自發力を誘ひ出すことに因つて、發動的に幼兒自身の努力を緊張せしめたいものです。序に、母の會の舉行事項に就いても、今少し、幼兒の關係する方面に就いて考へて見ませう。其第一はお話（幼兒がするもの）で、お伽話、實話、（報告的實驗談）説明、（繪畫又は實物を對象として）が出来ます。材料は無論、先生が造つて遣らねばなりません。次には唱歌です。獨唱、合唱、色々出来るでせう。其次には舞踊です。父兄が見て、誠に美しく、面白く感ずるもので、幼兒の可愛さを強調するものであります。以上の三つは父兄に幼稚園の實際を紹介する仕事として行らねばならぬ仕事で、此仕事に連れて補助材料として使用する衣裳、裝飾物、道具等に幼兒の手技の結果に俟つ可

きものが、多々ある様です。成る可く幼兒の働きを實現させて、其結果を父兄に報告す可きであります。

三、初冬の景色 十一月も稍、終りに近づく、初冬の景色が野外を訪れて、落葉は段々と其量を減ずると共に古枯が吹き荒ぶ様になります。すると、街頭には向ふの辻角や、こちらの家と家とのひあはひなどに時ならぬ小さな龍巻が出来て、ごみや、枯葉などを吹き巻き上げる様子など、觀察の材料となります。同時に寫生畫の材料でせう。枯葉の落ちつくした木の様も寫生して面白いと思ひます。田や畑の様子も此頃では大分變つて來るでせう。何んな様に觀察して居るか、時々、聞いて遣つて善く觀察して居るものを賞賛してやる可きです。其結果は先生が問答しながら黒板上で繪に表はして見せて遣つて御覽なさい。子供は何の位悦ぶか知れませぬ。子供も眞似して繪の稽古と

なるでせう。

四、初冬の花と實 花としては、菊、ダリヤは前月號に云ひましたから除くとして、尙、此外に椿、山茶花、冬ばらがそろ／＼咲きます。卓上やピアノの上の飾りとして眺めると共に、觀察鑑賞す可く、其花びらは貼り繪に材料として面白く美しいものです。紅葉もまだ材料になるでせう。

果實では前號にも述べましたが、柿が眞先で、次には蜜柑、きん柑です。是等、日常に見もし、食べもするところの果實は幼兒の前で、實驗的に扱ふ必要は大してありません。概して、食物を觀察材料とすることは保育的授業としては兎もすると失敗に歸することの多いものですから、強いて、觀察材料として扱ふよりは寧ろ平素の觀察、即ち、子供の自由な觀察を整理して遣ると云ふ態度で、子供の觀念を問答的に調査して、之を黑板でまてめて繪にして見せると云ふ方が、却つて、保育的

効果は多いと思ひます。柿の種子やへた、蜜柑の皮、きんかんなどは色々手工材料になります。蜜柑の皮でこしらへた、飯事まじごとの道具や御馳走、きんかんの人形など可愛らしいものです。

五、冬の御仕度 十月更衣の事は前月號に書きましたが、夫れが愈々、進んで冬仕度となるので更に衣換があります。冬の夜着の手入もあるでせう。綿入作業が方々の家で行はれるでせう。子供の洋服は毛が厚くなり、着物は綿入となるでせう。寒さをよける毛、又は綿と云ふものに就いて、子供の注意を喚起す可きです。そして、其毛又は綿を以て何か細工して見せることが必要です。

先生が毛糸で編みものを仕て見せてもよし、綿で綿細工の玩具を造つて見せてもよろしい。是等は子供に行らせるとしては六ヶしい仕事ですが、何か先生の手先に因つて、是等を材料とした遊びの材料が出来て、夫れに因つて何か遊ばれるとしたならば、夫れだけで、相當の保育授業と云ふ可きであります。毛糸のダンス人形、綿細工の小

鳥や獸類、簡單で、然も、美しく出来る玩具であります。

冬のお仕度として、是非、子供に行らせて欲しいことは植木の手入であります。盆栽の霜よけ寒さよけであります。フレームの中や椽の下などに、かこつて置くもの、單に、霜よけを置くものなど、子供に手傳はせてなす可き作業でせう。

六、秋雨の日　うすら寒い秋雨のそぼ降る日はお話や、唱歌や、さては人形芝居などに興ずる恰好の日でせう。そして、其材料として、子供の手を以て造らしむ可き幾多の手工品があるでせう。サア、是から人形芝居しませう。誰さんは鬼と書いて切り抜いて下さい。誰さんは桃太郎さんを、誰さんは犬を、誰さんは猿を、誰さんと誰さんと誰さんは、赤鬼・青鬼、黒鬼をこしらへて、誰さんは寶物をと云ふ様に分擔して、人物、背景、諸道具等をこしらへ、先生は有り合のものです、舞臺を用意して、そこで人形芝居が演ぜられるとしたら、一日を面白あかしく遊ばれて、そして子供の手は實用に向つて、張り切つた役立を努めること

になりませう。何と意義ある保育の一日ではありませんか。其他、お話の結果を繪にさせて見ても面白いし、唱歌の意味を繪で表はさせても面白いでせう。是等は、一寸考へると極めて六ヶしい仕事の様子に思へますが、夫れは、大人の考へて、成る程、一つの美術としては頗る困難でせうが、單に達意を主とし、發表を主とする表現作業としては決して困難でないと思ひます。

先生は幼兒の圖畫を美術として考へずに、モット／＼平易な、單なる發表機關としての圖画的作業であると云ふ考へで、子供と共に發表的に遊んで遣ると云ふ風になつて欲しいと思ひます。是は丁度、子供の唱歌やお話が、決して、音楽家や講談師のする様な發表藝術ではなくて、單に、子供から保姆に、保姆から子供に、達意と發表とを主とする誤樂的遊戯に過ぎないのと同じ事であると思ふのです。子供の發表が下手なのは當然で、従つて先生も、未だ／＼藝術的でないことは無論のこと、何の恥かしかることがありません。幼稚園の先生はモット／＼圖畫を子供に書いて見せね

ばいけません。子供の耳に子守歌を聞かせる様に
モット／＼子供の眼にお伽ぎの繪を書いて見せね
ばいけません。私の知る範圍では子守歌を唱ふお
母さんはあるけれど、お伽繪を書いて見せるお母
さんのないのは慨嘆に堪えません。

七、おもちゃ（玩具）造り 庭は霜解で歩けな
くなつて、追々幼稚園は幼稚室になつて來ました。
風も無止に吹き荒んで、外の遊びに堪えられませ
ん。そこで、室内に於ける手技は盛んに行はれま
す。此時、最も適當なのは色々と自製の玩具に因
つて遊ぶことです。切符を製造して電車や汽車
の遊びをさせたり、飯事の道具や御馳走を自製さ
せて飯事をしたたり、色々の彌次郎兵衛を造つて、
綱渡りをさせたり、飛行機を造つて飛ばしたり、
色々と自ら作り自ら遊ぶことが出来るでせう。無
論、唯放任して置いたのでは出来る筈もありませんが、
一二の子供にヒントを與へて行らせれば、
漸次に、廣がつゝ盛んに行はれます。共同して、
大に造り盛んに遊ぶことの出来るものには歌留多
があります。幼児の用ゐらるゝカルタの中には繪

がるた、單語かるた、數象かるた、いろはかるた
等色々あります。何れもこれも、子供に作れるも
ので、そして、子供に遊べるものであります。繪
がるたといろはかるたにはフレイベル館の賣品に
出來たものもありますから、初めは是等を用ゐて遊
ばせ、少し倦きて來た所で、之を手本として、更
に、別種のものをご案させ共同製作させて、之を
以て遊ばせるとよいと思ひます。數象がるたと云
ふのはトランプの數の部分（繪でないもの）だけ
を採つた様なもので、是を數種 色で同じ數のも
のを數枚づゝ造るものであります。其遊び方は散
らして置いて採るものと、分擔して置いて早上り
を争ふものと二通りの遊びが出来ます。

以上で、十一月の中ばから十二月の中ば頃迄の
手技材料の採用される方面を説明した積りです。
モット、具體的に書きたいと思ひましたが、餘り
くた／＼しく長くなるのと繪を入れなければなら
ないのとで、何うも億劫になつて、矢張、斯んな
ことになりました。御期待に背くかも知れませ
んが、何うか御勘辨を願ひます。